



## 安曇野の食の魅力を発掘

6/25 安曇野市ご当地 B 級グルメワークショップ

市では、安曇野の食の魅力をさらに深めるため、「安曇野市ご当地 B 級グルメワークショップ」(全 3 回)の第 1 回を 6 月 25 日、穂高総合支所で開催しました。当日は、36 人が参加。5 グループに分かれ、安曇野の環境や、昔から食べられている食材などを付せんに書き出した後、グループ分けし、地域の魅力を整理しました。2 回目以降はさらに具体的な議論に入ります。



## 「生きる」意味を異国で問う

6/13 青年海外協力隊員が表敬訪問

国際協力機構 (JICA) のボランティアとして 2 年間アフリカに派遣される大月詩織さん (明科中川手)、小松洋さん (三郷明盛) が 6 月 13 日、宮澤市長を訪ね、出発前のあいさつをしました。

看護師の大月さんは、「高校時代、国によって医療に違いがあることに驚いた」と志望の動機を話し、赴任先のガボンでは、母子保健センターで健康指導にあたります。また、小松さんは、ジンバブエに赴任し、体育教師として中高生の指導にあたります。「日本と違い、毎日を生きるのが大変と聞いています。現地で『生きること』を見つめなおし、さらに役にたつ人材になりたい」と出発にあたり抱負を語りました。

## 地域防災の要、技を競いあう

6/12 市消防団ポンプ操法大会

安曇野市消防団ポンプ操法大会が 6 月 12 日、市内の王子チヨダコンテナ (株) 敷地で実施されました。

この日はポンプ車操法の部に 5 チーム、小型ポンプ操法の部に 11 チームが参加し、仕事の傍ら練習に励んできた選手の皆さんが、操作の迅速さ・正確さを競い合いました。ポンプ車操法の部は、第 10 分団第 1 部 (穂高) が優勝し、第 7 分団 (明科) が準優勝、小型ポンプ操法の部は第 6 分団 (明科) が優勝、第 13 分団第 3 部 (堀金) が準優勝しました。

ポンプ車操法の部優勝の第 10 分団第 1 部指揮者の蜷川卓也さんは、「優勝目指して頑張ってきた。次の協会大会も頑張りたい」と意気込みを話してくれました。上位 4 チームと音楽喇叭隊は 7 月 17 日に松本市公設卸売市場などを会場に開催される松本消防協会ポンプ操法・ラッパ吹奏大会へ出場しました。



## 大糸線に「おひさま」列車登場

6/18 「おひさま」ラッピング列車出発セレモニー

連続テレビ小説「おひさま」にちなんだラッピング列車の運行が大糸線で始まり、出発記念セレモニーが 6 月 18 日、松本駅 6 番線ホームで開かれました。ラッピング列車は 2 両編成。車体にタイトルロゴや登場人物の写真があしらわれています。

セレモニーには、丸山道夫役の串田和美さん、相馬真知子役のマイコさんも駆けつけ、関係者と共に初運行を見届けました。JR 東日本長野支社の久保田譲支社長は「日本は震災で大変な時だが、このような取り組みで少しでもプラスの方へ向かう一助になれば」とあいさつ。運行による地元や観光客への効果に期待を込めました。この日、列車は午前 11 時 8 分に松本駅を出発。市内 8 駅を経由し、終着駅となる南小谷へ向かいました。

運行は 9 月末まで通常ダイヤの中に組み込まれ、大糸線を走ります。

## 水辺の自然に親しむ

6/25 三角島の緑・水に親しむ集い

安曇野ブランドデザイン会議「三角島ふるさとの森プロジェクト」(場々洋介リーダー)による自然観察会が 6 月 25 日、穂高地籍の万水川などで囲まれた通称「三角島」で開かれました。

観察会は、同島に残る自然を知ってもらおうと企画。親子連れ 50 人が参加し、島の散策、川でのボート遊び、植物や動物の観察を楽しみました。

親子で参加した柴田洋二さん (有明) は、「ふるさととして知っておきたい場所。近所の沢とは違った形で子どもが水に触れられる遊び場になれば」と島の自然を満喫していました。



## 家族で収穫 おいしい玉ねぎ

6/18・19 安曇野とよしな玉ねぎ祭り

安曇野とよしな玉ねぎ祭り (実行委員会主催) が 6 月 18 日、19 日の両日、豊科地域を中心とした 10 会場で行われました。踏入地区の会場では、朝 8 時からの開場と同時に市内外から訪れた大勢の人でにぎわい、参加者は、土から掘り起こした玉ねぎの葉をハサミで切りおとし 20<sup>g</sup> グラム入りの袋に詰めていきました。

毎年、家族で参加している清水百合子さん (三郷) は、「収穫を親子で楽しめるのが一番、収穫した玉ねぎはただ焼くだけでごちそうになります」と収穫を喜んでいました。